

ギャンブル依存症 73例についての検討

札幌太田病院

太田健介、押部 弘、阿部一九夫、響 徹、
吉川憲人、太田秀造、太田耕平



目的、対象、方法

- **目的**: 我が国における同症の特徴を明らかにする。
- **対象**: 2004年2月～2006年11月の間に当院で同症と診断された73例。
- **方法**: 診療録調査を行った。

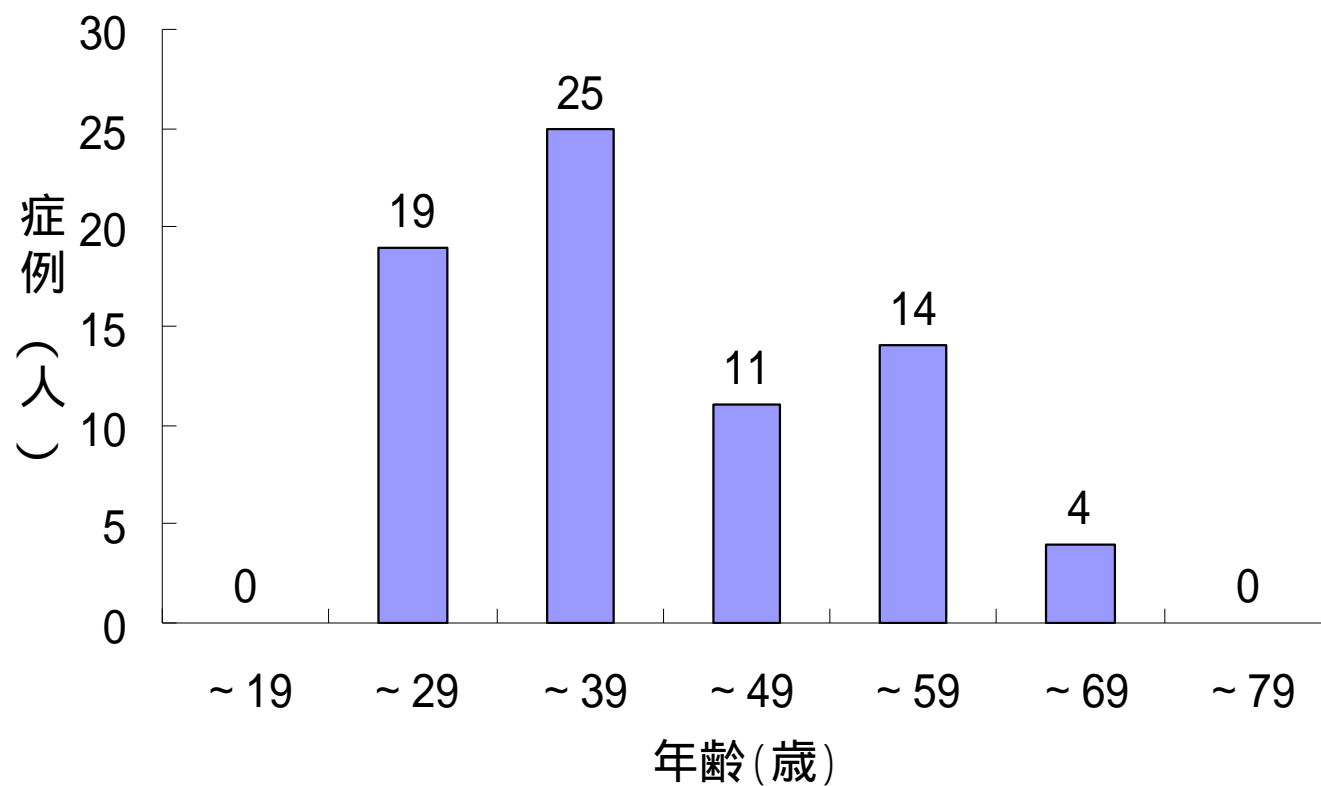


結果 対象者の属性 1

- 性別：男性59例(81%)、女性14例(19%)
- 婚姻：有 49%、離婚・別居等18%、未 19%
- 就労：有 70%、主婦7%、学生3%、無 19%
- 受診意志(重複有)：本人33例(45%)、配偶者19例(26%)、親19例(26%)、兄弟・子7例(9%)、司法書士5例(7%)

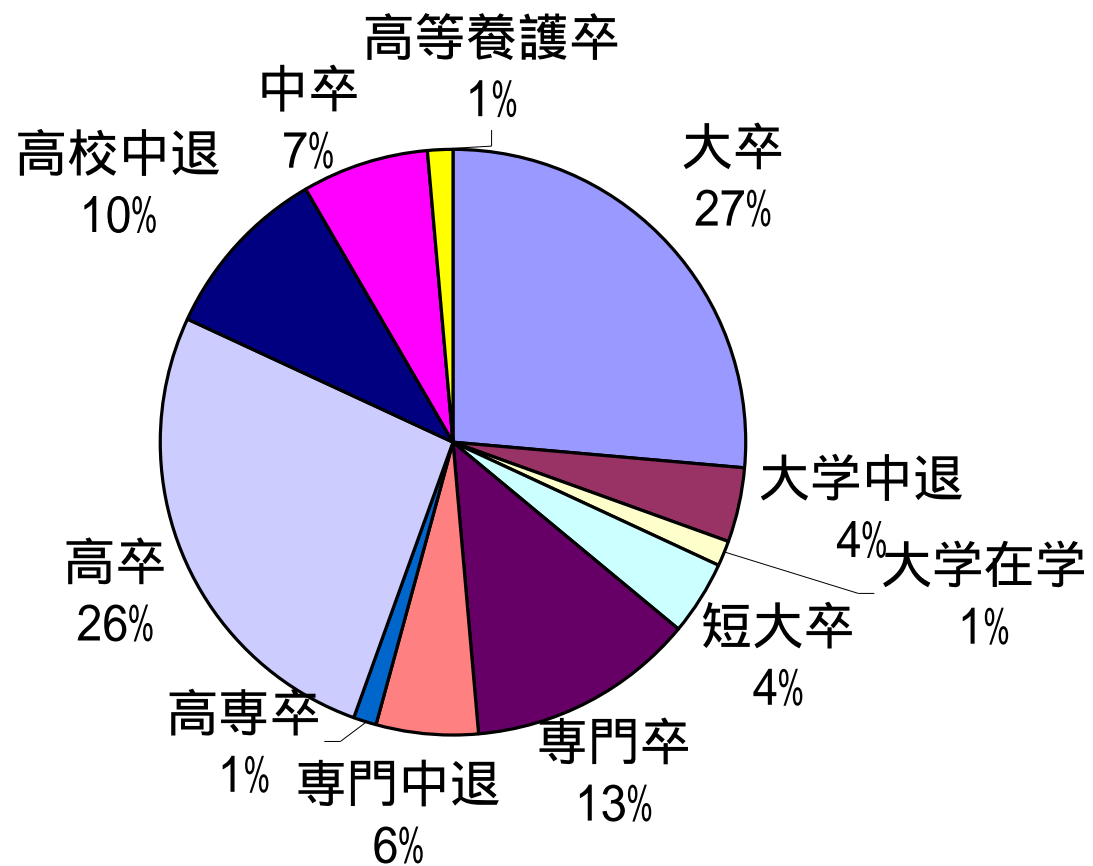
初診時年齡

20歲 - 66歲、平均 39.3歲、SD 12.3歲、
中央值 37歲、最頻值 34歲



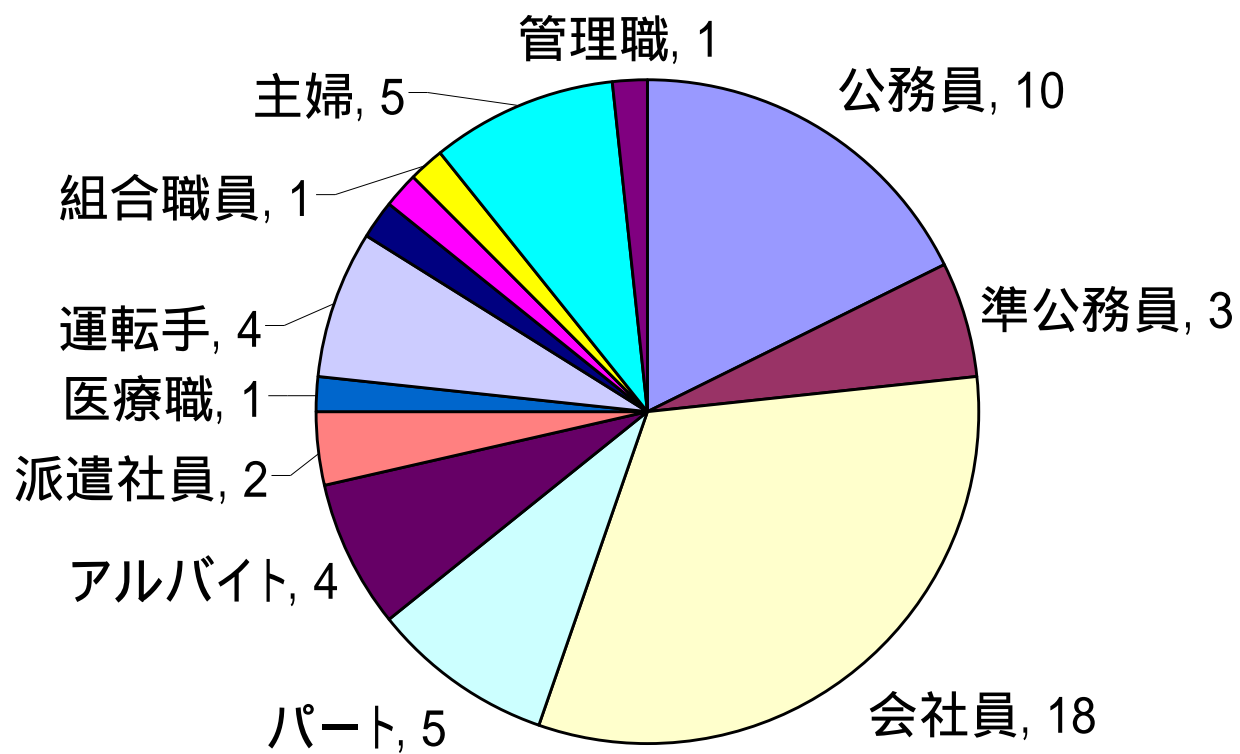
學歷

N=72



職種

就労者の職種 N=56



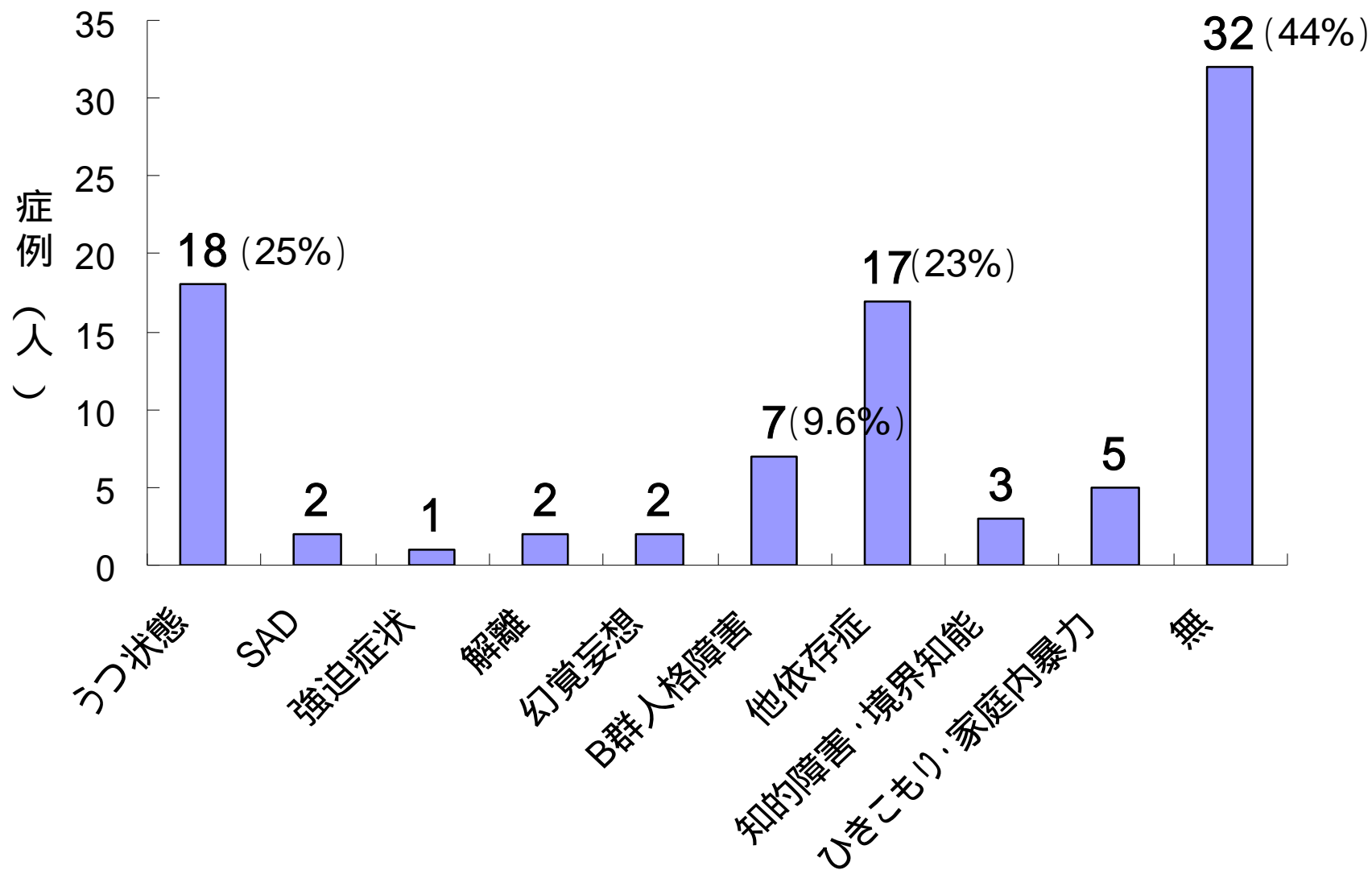


対象者の属性 2

- 賭博種類：パチ・スロ(P)70%、P + 合法賭博18%、競馬5%、P + 違法賭博4%、(スロット関連56%)
- 負債：有 69例(95%)、無 4例(5%)
- 借り先(複数回答)：消費者金融58例、家族・親戚16例、クレジット11例、ヤミ金融10例等
- 返済者：親32例、配偶者19例、本人のみ16例、子2例、兄弟・親戚12例
- 法的整理：無 63%、有29%(自己破産8%、個人再生・任意整理9%、相談中12%)
- 犯罪など：横領 8例、失踪 6例、窃盗 2例

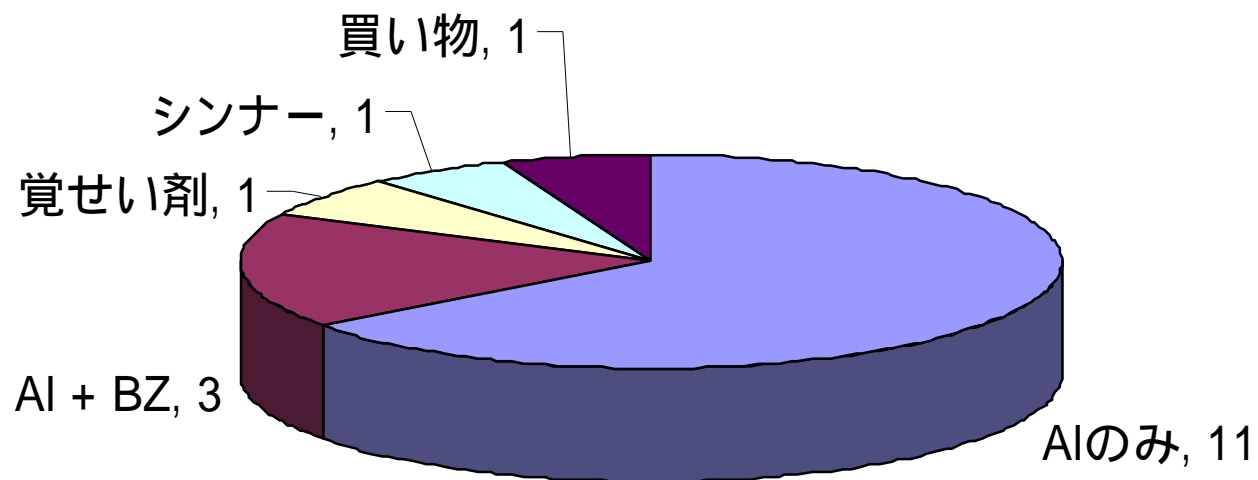
精神科合併症、合併症状

(重複有)



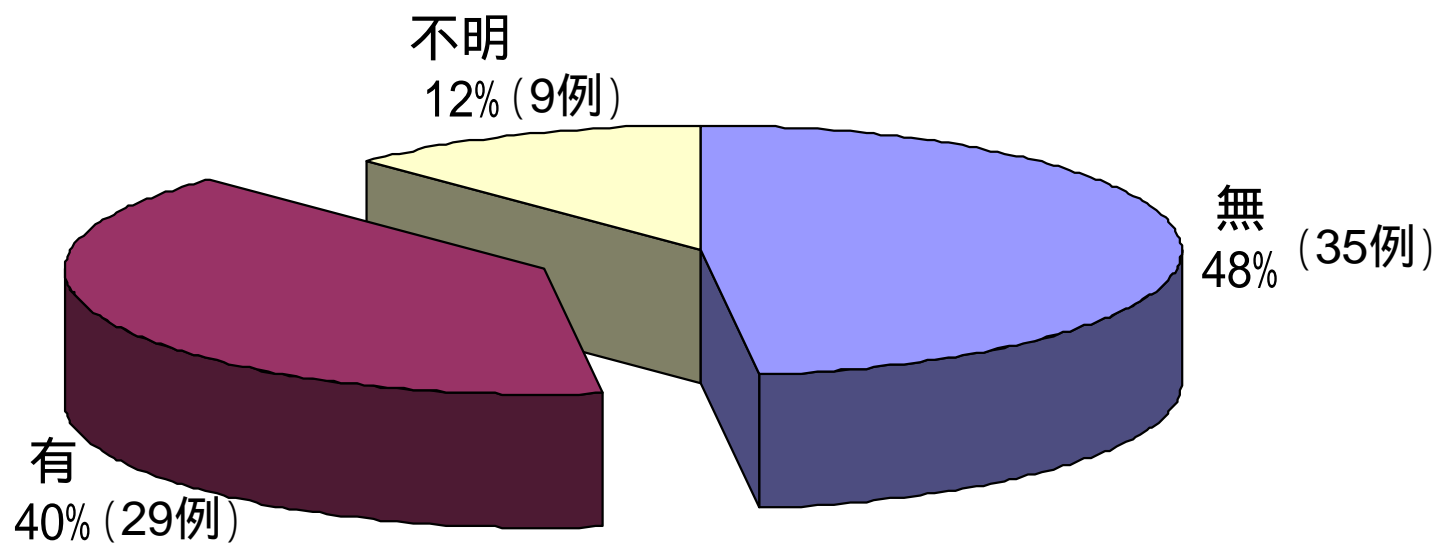
合併した他依存症の内わけ

N=17



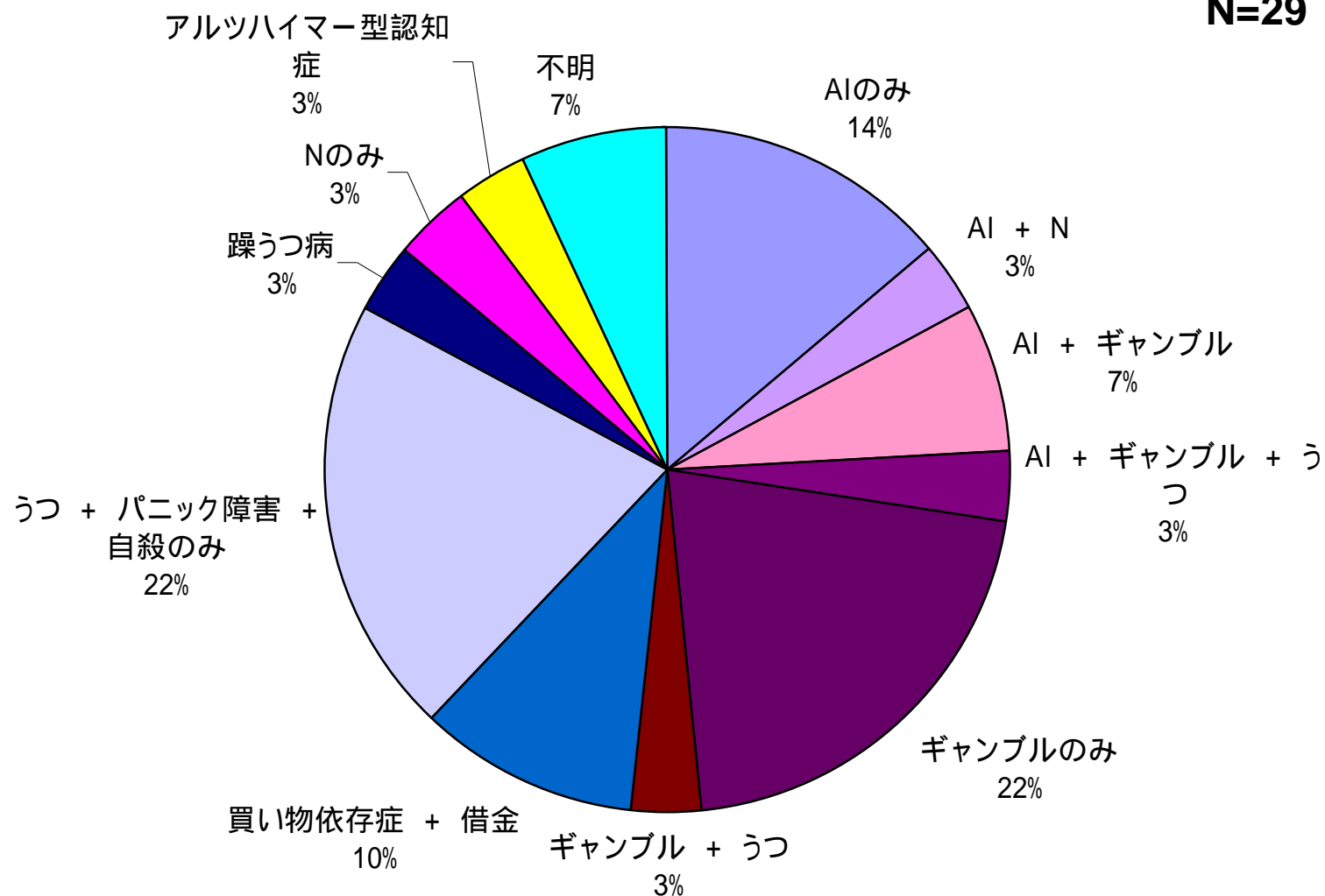
精神科的家族歷

N=73



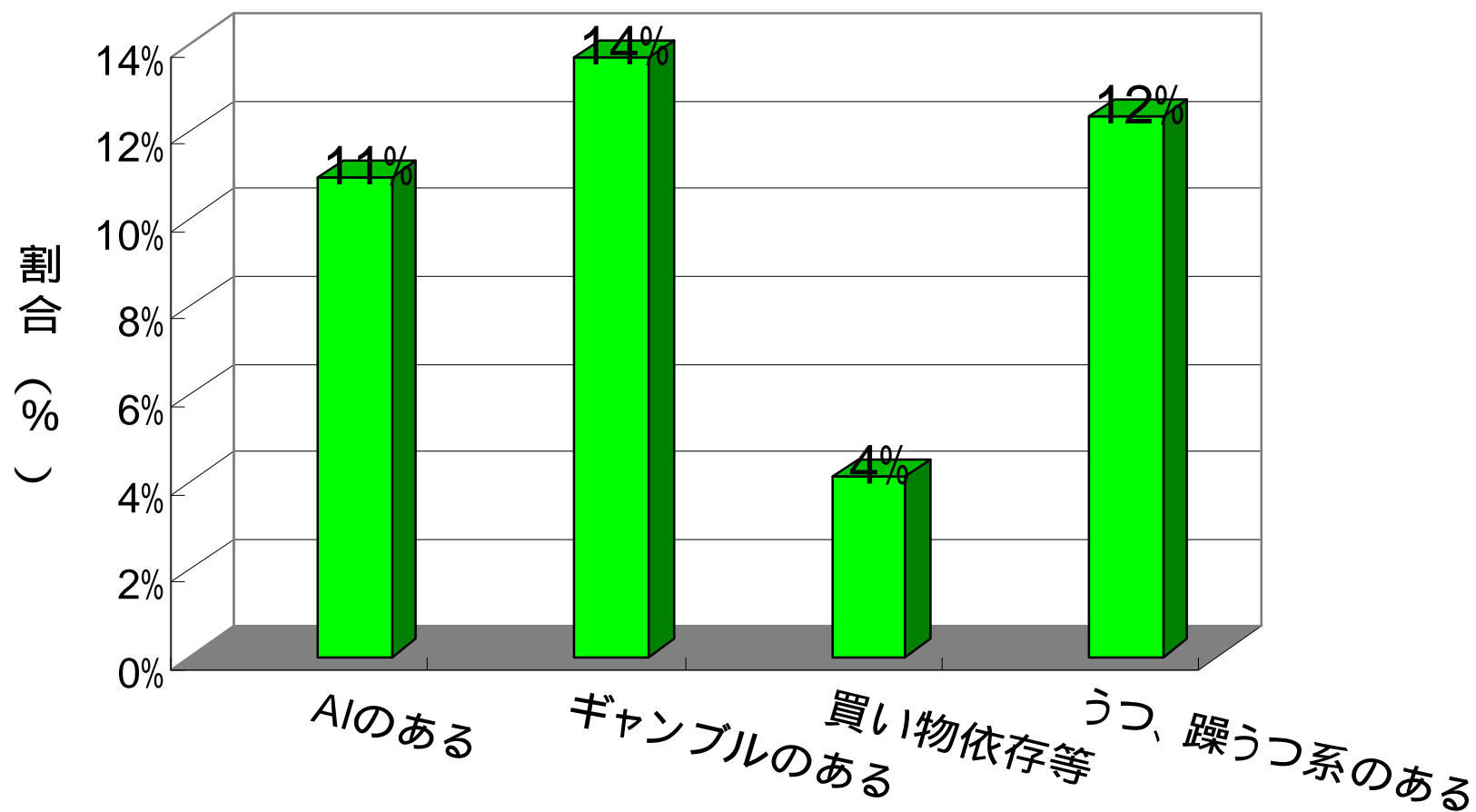
精神科的家族歴 詳細

N=29

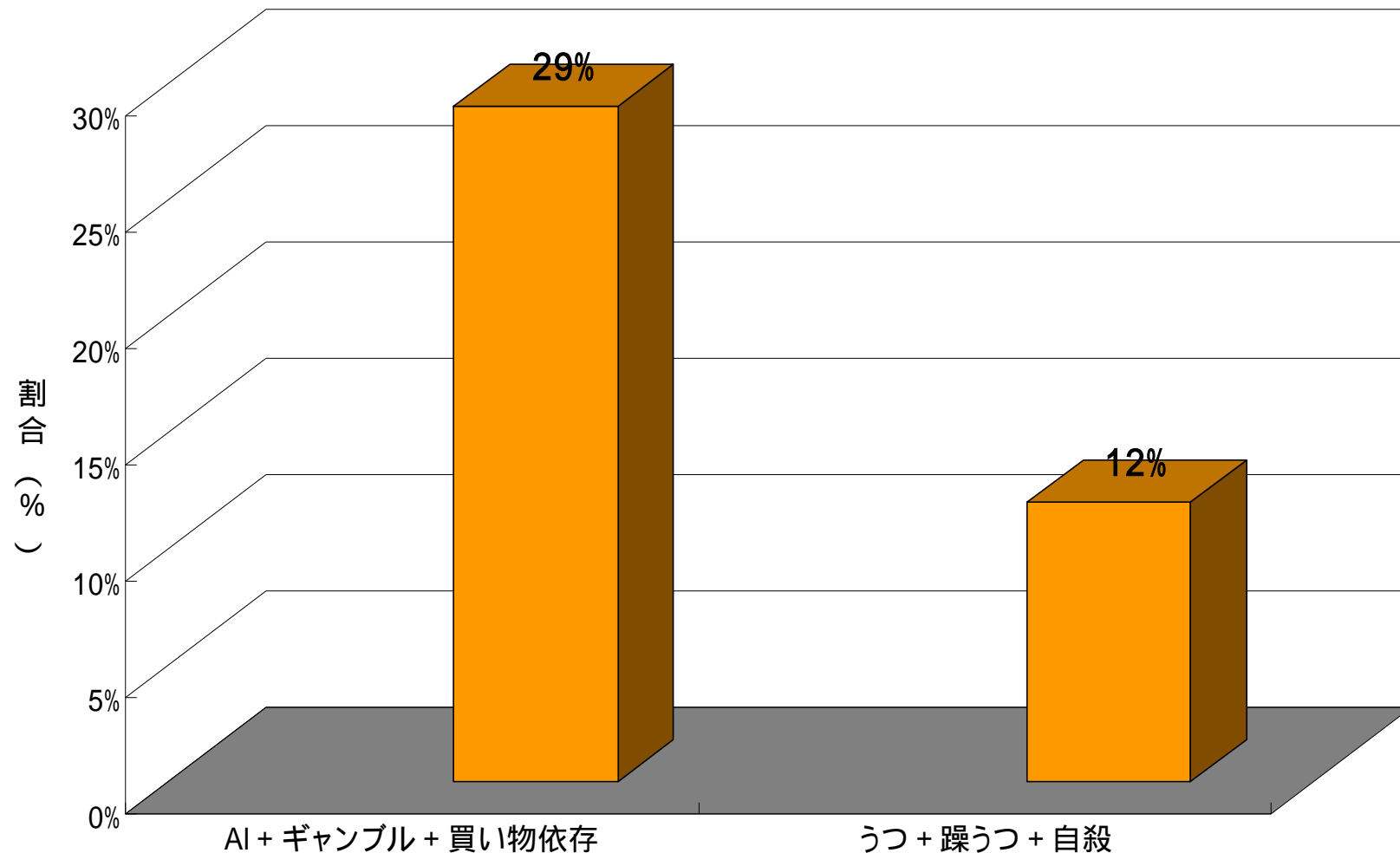


家族歴 疾患別割合 (対全体)

(重複有)

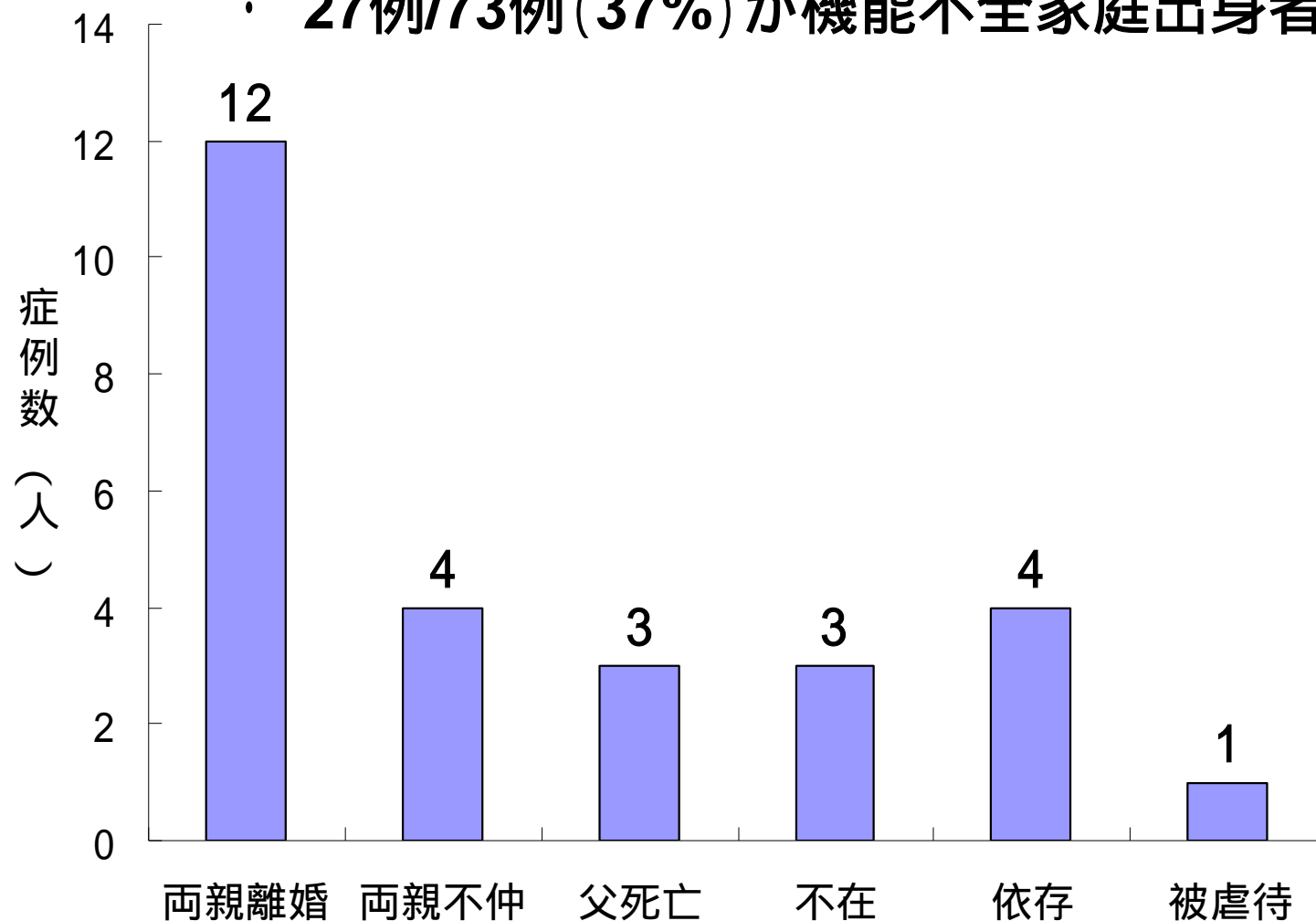


全症例中 依存症及び感情障害の家族歴を有する割合



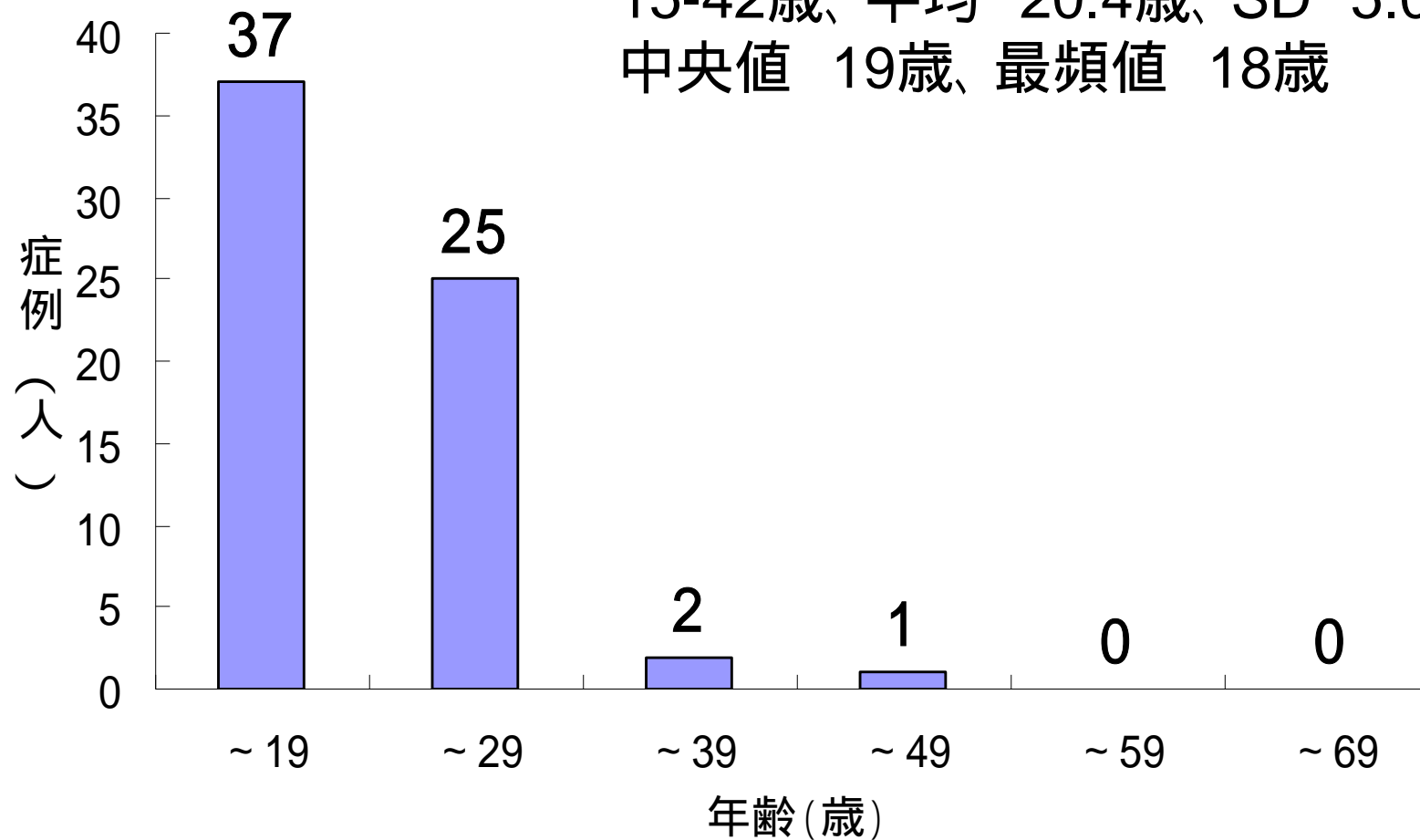
機能不全家庭出身者の内わけ

・ 27例/73例(37%)が機能不全家庭出身者



ギャンブル開始年齢 N=65

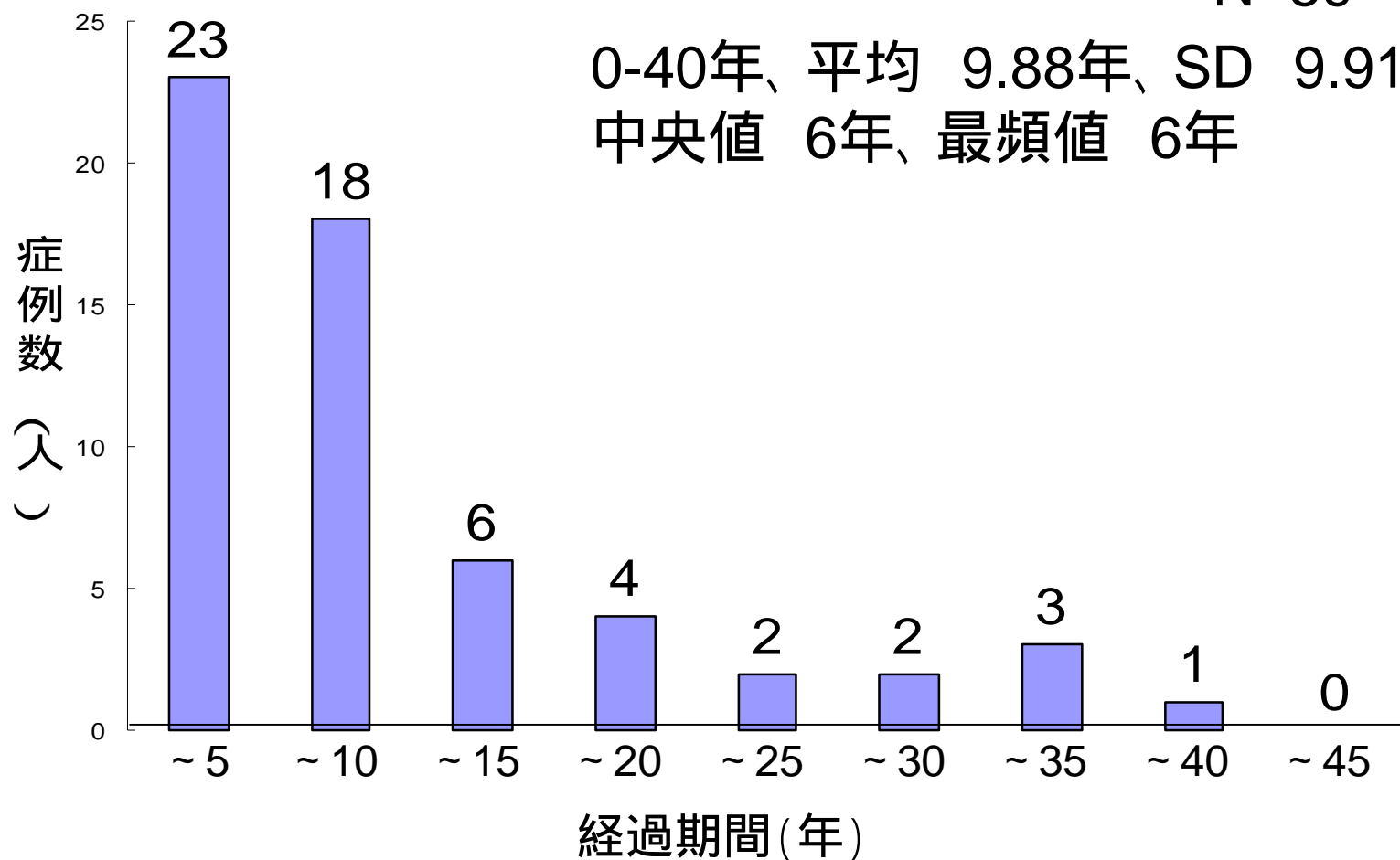
15-42歳、平均 20.4歳、SD 5.08、
中央値 19歳、最頻値 18歳



開始後抑制障害出現迄の期間

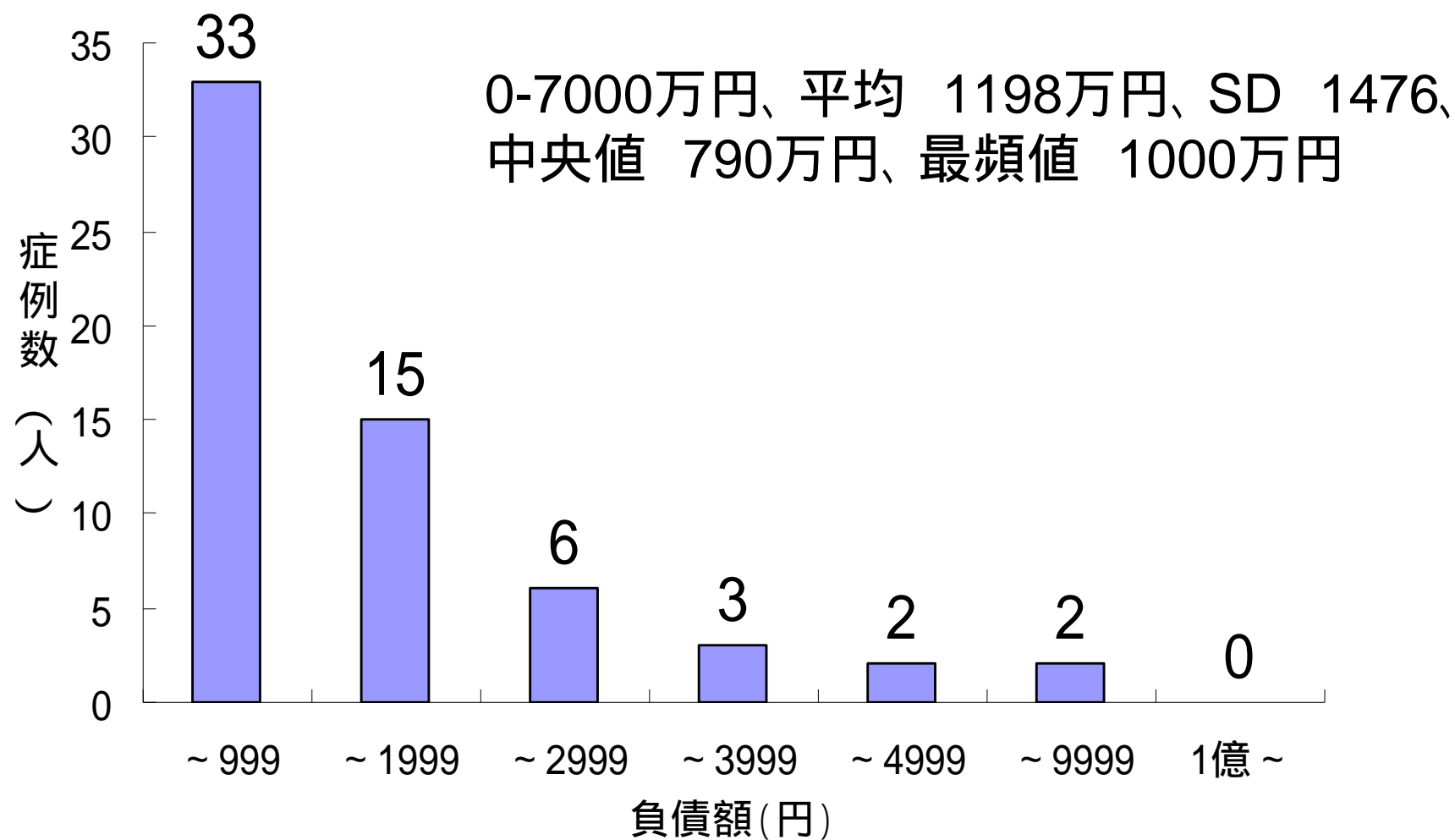
N=59

0-40年、平均 9.88年、SD 9.91、
中央値 6年、最頻値 6年



負債額

N=61



抑制障害出現後年数と負債額の関係

N=57

抑制障害発現 後年数	負債額平均 (円)	SD	中央値 (円)	N
1年未満	136万	161	60万	5
1~4年	630万	646	455万	8
5~9年	1121万	1677	650万	18
10年以上	1568万	1485	1000万	23



考察 1

- 今回の調査で得られた性別、開始年齢、婚姻状況、就労状況に関する結果は米国での報告と同様の傾向を示した。
- 対象者の25%は公務員であったことも含め、学歴や社会所得階層との関連は明らかではなかった。
- 対象者の大半が若年時にギャンブルを開始していたが、発症予防に関して若年者への啓蒙活動の有効性を指摘する海外文献もあり、本邦でも同様の取り組みが必要と考える。

考察 2

- 他依存症、感情障害との関連を有する大きな一群を認め、従来の報告と同様の結果であった。
- 機能不全家庭出身者も4割存在した。この群は諸依存症、感情障害、人格障害などと遺伝的、環境的に密接な関連を有すると推測され、その素因に基づく症状の一つとしてギャンブル依存を呈していると考えられた。
- 約半数では合併症、家族歴、生育歴に問題を認めなかった。
- 56%がスロットを行っていた。米国でも4割が行い、その依存性の高さが指摘されている。本邦では近年スロット台が急増しており、患者数増加に関係している可能性がある。
- 以上の結果は、本症に罹患し易い一群は存在するが、賭博自体が依存性を有し、誰でも罹患し得るという森山の説を支持するものと考えられた。